

令和7年度 文教常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和7年11月18日(火)午後1時30分から午後4時00分		
視 察 先	愛知県半田市	人口	115,423人 53,711世帯 (令和7年11月1日現在)
		面積	47.42 km ²
担 当 職 員 等	教育部学校教育課 教育部スポーツ課		
視 察 内 容	部活動の地域移行について		
視 察 目 的	部活動の地域展開について本市においては令和8年度より休日のみ、令和11年度より完全地域展開を目指しています。その先進事例を学びたいため。		
調 査 概 要	<p>【中学校の部活動の地域以降について】</p> <p>○スケジュール</p> <p><スポーツ課、生涯学習課、関係団体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度～R6年度8月 <p>中学生の受け入れ先となる環境の整理 組織的運営体制の構築 スポーツ・文化芸術団体への支援等の整備充実 意見交換及び検討会議 指導者及び活動場所の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6年度9月～ <p>土日祝日における地域での中学生の本格的な受け入れ開始 体制の充実に向けての継続した整備 関係団体主催の大会・コンクール等の在り方の見直し</p> <p><学校教育課></p> <ul style="list-style-type: none"> ・R4年度 <p>児童生徒・保護者・学校向けアンケートの実施及び結果整理 新ガイドラインの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5年4月 <p>児童生徒・保護者へ説明資料配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R5年度4月～R6年度8月 <p>スポーツ課・生涯学習課との連携 学校施設の利用規定等についての見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6年9月1日 <p>新ガイドラインの運用開始</p> <p>○部活動改革に伴う課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の受入先となる団体の整備 		

令和7年度 文教常任委員会 行政視察報告書

<p>・部活動として参加しない大会の整備</p> <p>・活動場所及び活動時の備品等の使用ルールの整備</p> <p>○課題対応</p> <p><生徒の受入先となる団体の整備></p> <p>国県補助事業は活用しない市単独補助事業として、中学生を対象にスポーツ・文化芸術活動を実施している民間団体を対象とした。補助期間は令和6年度～令和8年度で補助率は補助対象経費の9/10、対象経費は報償費・人件費・需用費・役務費・委託料とし、令和7年度の予算額は17,489千円であった。</p> <p><部活動として参加しない大会の整備></p> <p>スポーツ課が中心となってスポーツ協会・総合型地域スポーツクラブ・スポーツ推進委員・学校と協力して改革に伴う課題解決を図る組織体を設立した。そこでクラブチームも参加できるよう大会要項の変更を行ったり、中学生の部の大会運営に係る引継ぎや田団体への大会要項の変更要望を行っている。</p> <p><活動場所及び活動時の備品等の使用ルールの整備></p> <p>活動場所としては体育施設の予約飽和状態の解消に取り組み、テニスコートなどの学校体育管理施設の追加を行った。備品についてはクラブチームと学校の共同運用としたが、平日の地域移行を見据え、更なるルール作りが必要である。</p> <p><その他></p> <p>指導者の確保はスポット指導者として包括連携を締結している大学から派遣してもらっているが、主となる指導者の確保は解決に至っていない。</p> <p>○運営スタイル</p> <p>主体は地域の団体としてスポーツ課や生涯学習課は運営支援を行っている。どの地区でどのような競技をどう活動するかは生徒が主体的に決める土日の習い事としてのスタンスをとっている。現在の市内全体の受入態勢状況は52団体で部活動種目は23種目である。</p>

令和7年度 文教常任委員会 行政視察報告書

所 感	<p>中学校の部活動の地域展開は様々な課題を抱えている上に期限が決められており、また全国一斉に近い取り組みなので先進事例も少ない。今回視察した半田市は数少ない先進事例であり、課題整理や解決法の模索をするうえで大変参考になったが、そのまま本市へ持ってくることはできない。半田市においては各中学校に総合型地域スポーツクラブの事務局があり、受入先となる団体が数多く市内に点在している。これを本市に持ってくるには協力団体への支援や、土日を習い事として割り切ってしまうことに対する生徒の親への理解が必要となり一朝一夕ではかなえられない。しかし本事業に対する課題は共通する部分が多く、どのような形式をとったとしても課題解決に至るプロセスは真似ることができる部分も多い。来年度に迫った地域展開においてスムーズなスタートが切れるように視察で学んだことを積極的に提案していきたい。</p>
-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------